2019 年度　名桜大学　学生生活実態調査
＜概要＞

2020 年 3 月

名桜大学

学生サポート委員会

Ⅰ 調査の趣旨等

・名桜大学の学生生活実態調査を行い、経済的問題、社会的問題、学業的問題の実態を明らかにする

Ⅱ 調査の概要

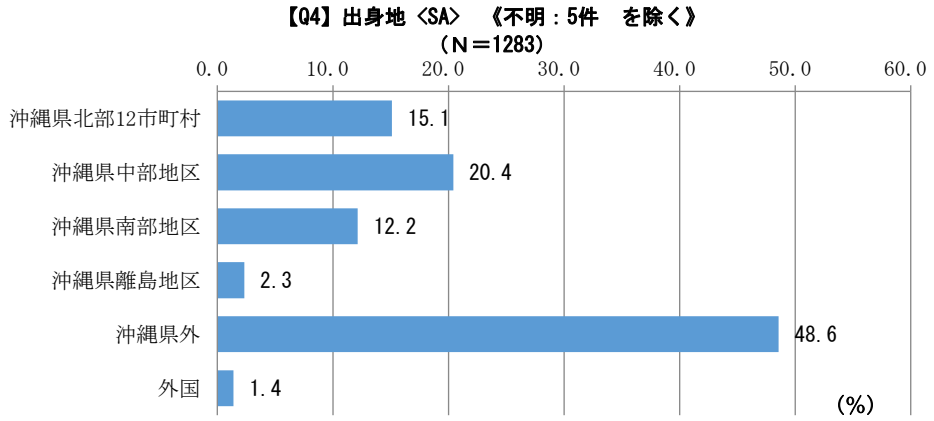
・対象者：名桜大学学生 1 年次から 4 年次、大学院生の 2,094 人
・調査方法：無記名自記式調査、留置き法
・調査期間：2019 年 9 月～10 月
・調査内容：属性、居住環境と経済状況、生活状況、健康状況、学修状況、入学状況、進路、大学学習環境（施設）等

Ⅲ 結果

今回、名桜大学学生生活実態調査を実施し、学群・学部・研究科併せた在学生 2,094 人中 1,284 人から回答を得た（回収率 61.3%）。性別では男性 35.4%、女性 64.1%であり、在籍者構成比率をほぼ反映している。さらに出身地別でも、沖縄県内 50%、沖縄県外・国外が 50%であり、在籍学生比率をほぼ反映している。従って、今回の名桜大学学生生活実態調査は母集団を反映した適切な調査であると考えられる。分析結果は今後の大学運営に有意義な資料となる。今回の学生生活実態調査結果の大項目について以下に概要を示す。

１．対象者の属性

北部 12 市町村出身学生は 15.1%（194 人）であり、北部枠推薦で入学した学生数 140 人を凌ぐ数ではあるが、前回調査（2016 年度 17.6%、241 人）より 2.5%少なかった。県内出身者は 50.0%(2016 年度 49.1%)、県外出身者 48.6%(2016 年度 49.6%)、外国 1.4%(2016 年度 1.3%）であり、県内出身者の割合が微増している。性別では男性 35.4%(2016 年度 39.6%)、女性 64.1%(2016 年度 60.4%)、その他 0.5%（2019 年度新規項目）であり、女性の占める割合が増加した。



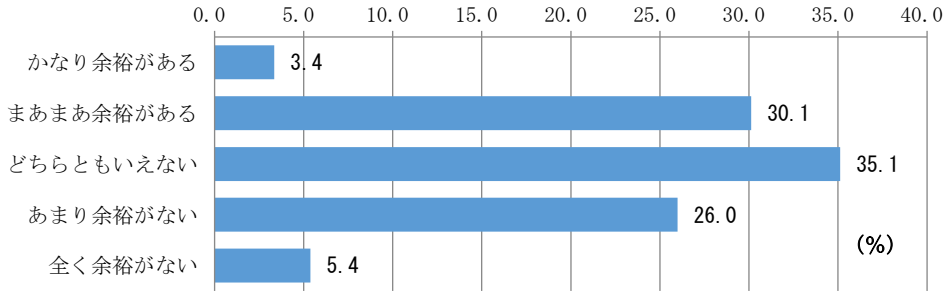
２．住まい及び経済状況について

学生自身の経済的状況を「かなり余裕がある」と「まあまあ余裕がある」と回答した者（以下、ゆとり層）は 33.5%(2016 年度 28.8%)であり、「あまり余裕がない」と「全く余裕がない」と回答した者（以下、困窮層）は 31.4%（2016 年度 32.0%）であった。今回の結果は 3 年前の調査と比べ、ゆとり層が 4.7%増加し困窮層が 0.6%減少したが、依然として約 3 人に 1 人が困窮層に含まれる割合である。家族からの仕送り状況は、「なし」が 46.7%(2016 年度 41.7%)であった。さらに仕送り「なし」と月平均「2 万円未満」を合わせると 57.6%(2016 年度 55.1%、2013 年度 52.5%)であった。居住形態別で仕送りの状況をみてみると、いずれの居住形態においても「なし」が最も多かった。以上のことから、これまでの調査と比べても経済的に困窮している学生の割合が増加している現状が明らかとなった。

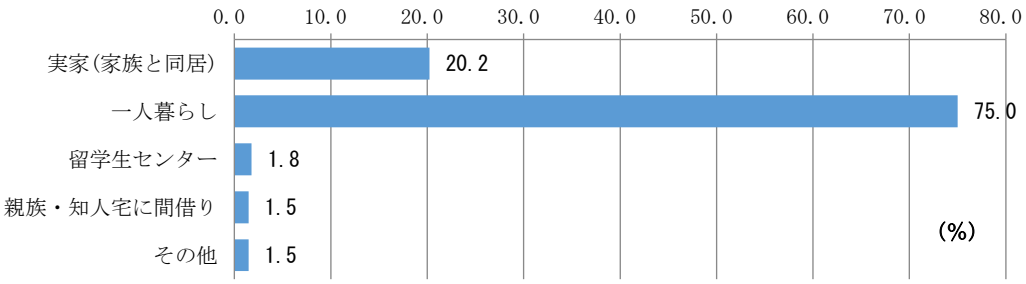
学生の収入は、奨学金受給 60.4%(2016 年度 63.2%）とアルバイト従事 80.6%(2016 年度 71.4%）であった。学年別では、1 年次 66.8%であり 2～4 年次で 80～90%であった。アルバイトをしている理由として「生活費のため」75.1%(2016 年度 73.3%)、「学費のため」17.8%(2016 年度 17.4%)など経済的理由が多い一方で、「旅行、レジャーのため」39.3%(2016 年度 28.6%)、「交際費のため」37.1%(2016 年度 30.5%）であったことから、学生の経済状況の二極化が推察された。居住形態で「一人暮らし」が 75.0%を占める現状も、学生の経済的な状況を深刻にしているものと推察される。アルバイトの時間で「5 時間」が 43.6%と最も多く、次いで「6 時間以上」30.8%であった。また、勤務時間は「18 時～24 時」78.2%と多く、「24 時～6 時」では 0.2%、一週間当たりのアルバイトの頻度は「3 日」30.6%、「4 日」34.8%、「6 日以上」4.3%と、アルバイトをしている者の 8 割は 3 日以上勤務していた。

アルバイトを夜間に、長時間、高頻度で従事している学生がいる実態が明らかとなり、学業への影響が懸念される。

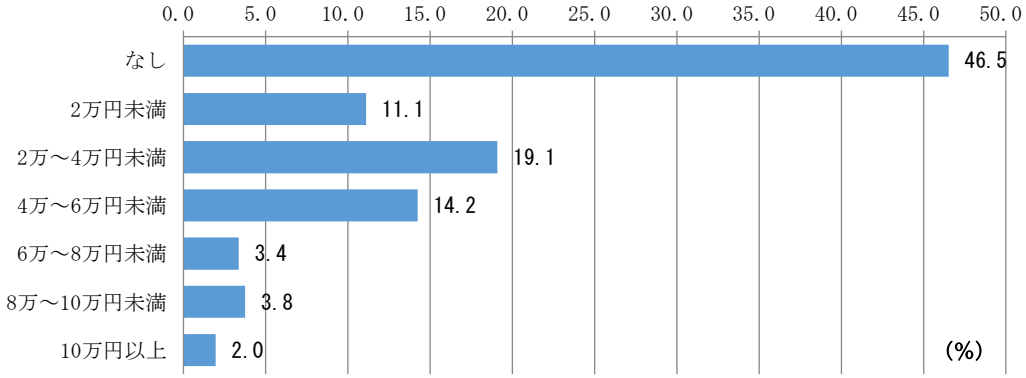
【Q6】現在のあなた自身の経済状況について〈SA〉　《不明：7件　を除く》
（N＝1281）



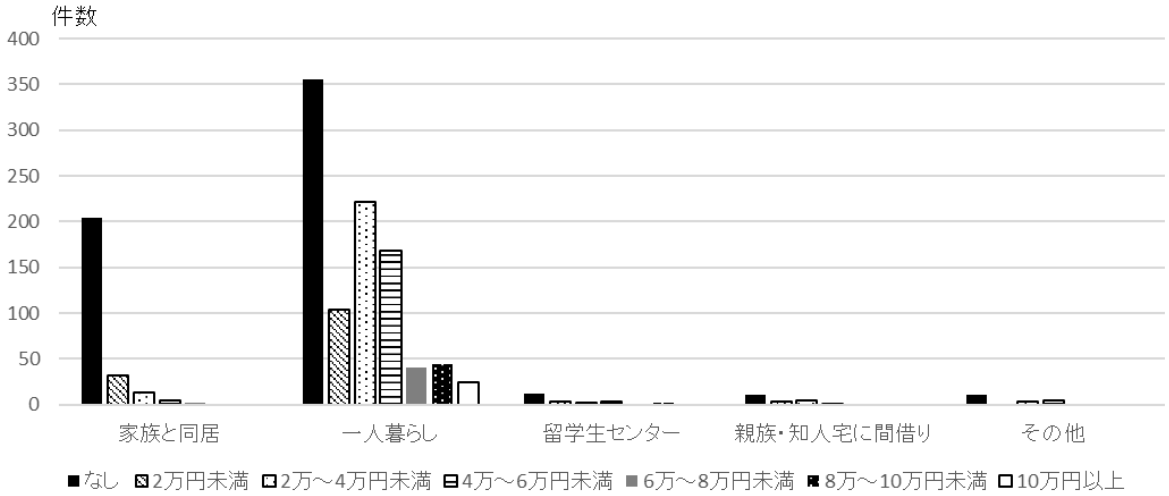
【Q7】現在の居住形態について〈SA〉　《不明：4件　を除く》
（N＝1284）



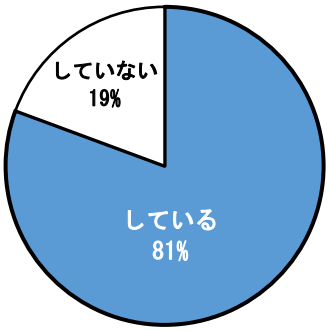
【Q8】家族からの仕送り（小遣い）の平均月額（学納金は除く）はどのくらいですか <SA>
《不明：9件　を除く》　（N＝1279）



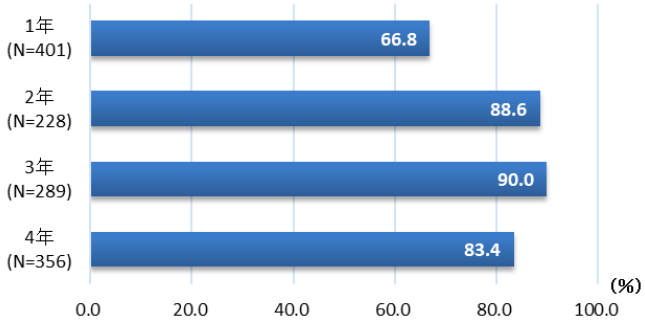
【Q8】家族からの仕送り（小遣い）の平均月額（学納金は除く）はどのくらいですか（居住形態別）

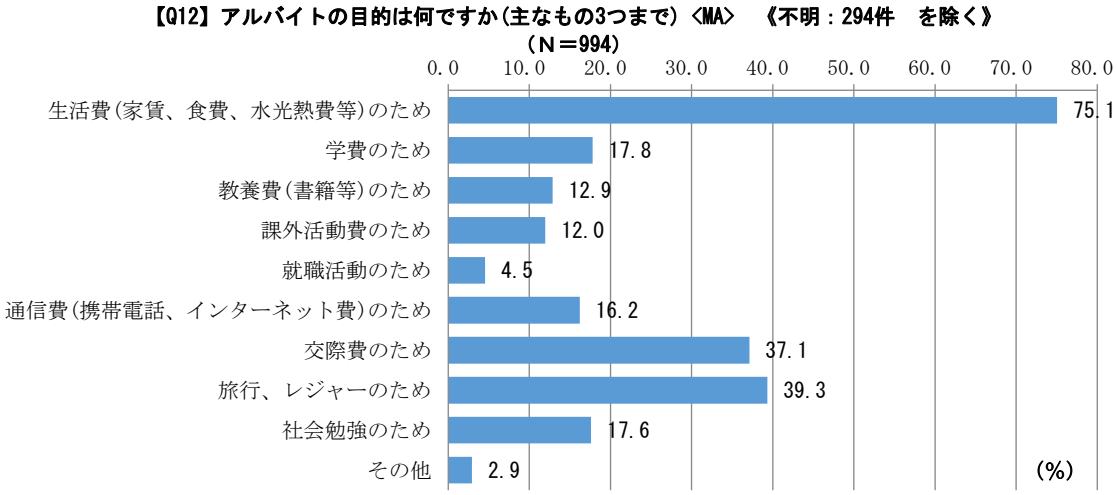


【Q11】アルバイトはしていますか



学年別　アルバイトをしている割合



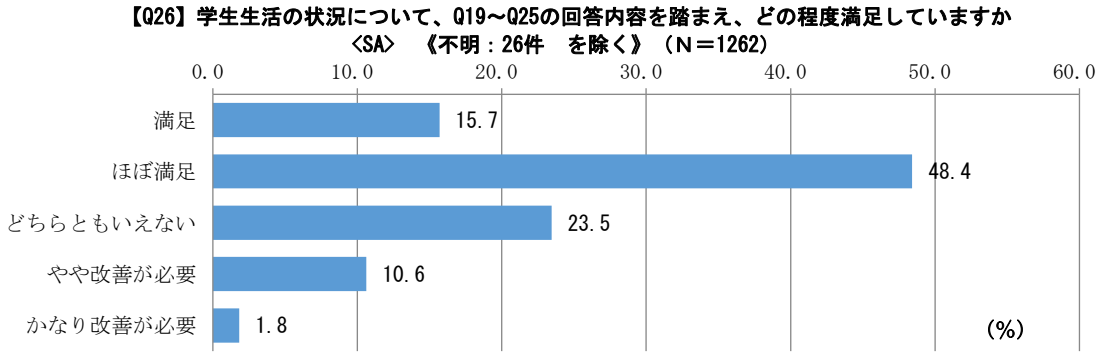


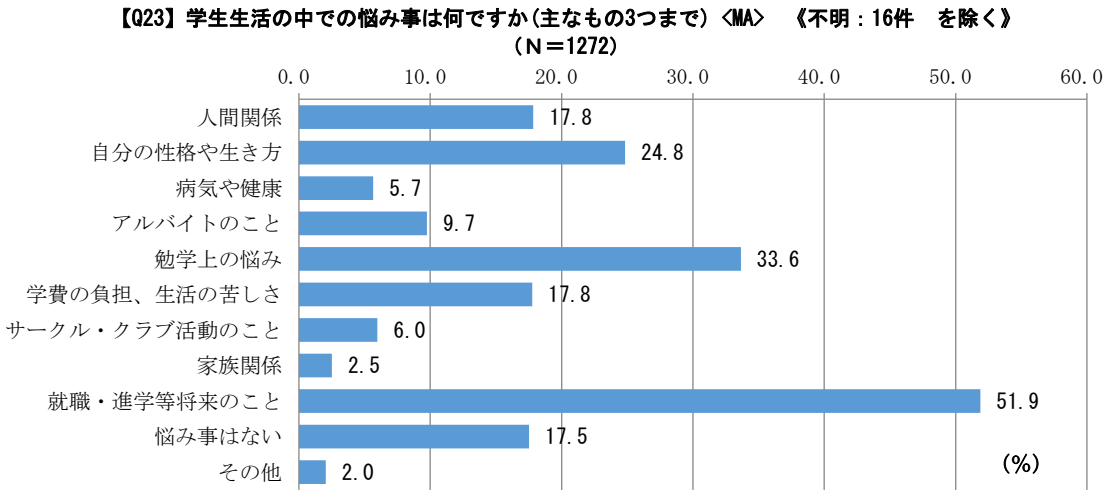
３．生活状況について

学生生活については 64.1%（2016 年度 56.8%）が満足と回答している一方で、悩みがない者は 17.5%（前回 17.2%）であり、8 割以上の者が何らかの悩みを抱えていた。主な悩みは「就職・進学等将来こと」51.9%（前回 52.8%）、「勉学上の悩み」33.6%（2016 年度 36.9%）、「学費の負担、生活の苦しさ」17.8%（2016 年度 19.6%）であった。様々な悩みを抱えている学生が多いことから、必要に応じて学生相談室やキャリア支援課を利用することへの啓発や学生支援体制の充実が必要である。

正課外の周辺情報（クラブ・サークル活動、休日の過ごし方、悩み事、相談相手等）の調査で、気軽に悩みを相談できる友人がいない者が 4.2%(2016 年度 6.5%)であったことは、注視が必要であり、学生相談やカウンセリングに繋ぐ工夫が必要である。本学では 2016 年度より障がい学生支援のガイドラインを作成し、学生の申請に応じて合理的配慮を実施するなど多様な学生を受け入れる体制を講じている。対象学生が少ないこともあり今回の調査では評価することはできないが、多様性を受け入れていく体制として今後も、障がい学生支援に取り組んでいく。

平成 28 年（2016 年度）より公職選挙法等の一部を改正に伴い選挙権が 18 歳へ引き下げられたことを受け、直近の選挙に投票したかを調査したところ「投票しなかった」66.5%であったことから、社会参画の意識に対する課題が明らかとなった。





４．健康の状況について

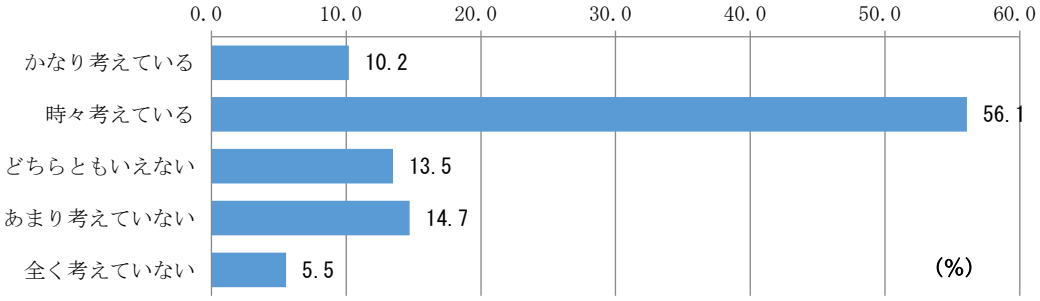
日頃から健康を意識している学生は 73.4%(2016 年度 70.1%) であるが、健診受診率は 90.2% (2017 年度 96.3%) と低下していた。また、自炊や外食など自身で食事を賄っていた者は 78.4%(2016 年度 81.3%)であるが、食事の栄養バランスについて考えていない者は 20.2%(2016 年度 22%)、朝食を摂っていない者は 48.9%(2016 年度 47.7%) であり、学生の食生活に課題があった。朝食を摂らない理由として、「時間がない」38.8%(2016 年度 36.5%)、「寝ていたい」30.2%(2016 年度、28.7%) 等であった。睡眠時間が「7 時間未満」の学生は 79.7%(2016 年度 50.4%)と前回調査より大幅に増えており、これは朝食を摂らない理由の一つである「寝ていたい」とも関連していることから、睡眠不足による栄養面や学業への影響が懸念される。

飲酒状況では、月に一回以上飲酒する者は 55.6%であり、そのうち 0.7%は毎日飲酒しており依存状況が懸念される。飲酒指導については、主に新入生ガイダンスで取り上げているが、飲酒の影響について全学的に進めていくことが必要である。

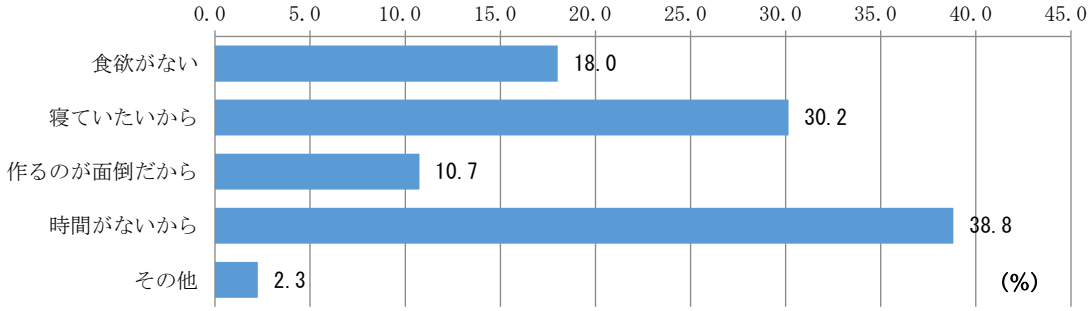
本学学生の喫煙率は 5.2%(2016 年度 4.8%)で、そのうち 39.1%(2016 年度 56.7%)が禁煙したいと考えていた。受動喫煙防止を目的とした改正健康増進法により第一種施設にあたる大学では 2019 年 7 月 1 日より敷地内禁煙が義務付けられる。本学では喫煙箇所を検討し、屋外での受動喫煙を防止するために必要な措置が取られる場所としてこれまで 5 箇所あった喫煙場所を 4 箇所に変更した（副流煙の害を指摘されていた講義棟の間に設けられている喫煙場所の撤去)。その他、喫煙者が禁煙に関する情報を入手しやすいように、禁煙外来を開設している病院の紹介と保健管理センターの相談窓口に関する情報を喫煙場所に掲示するなど、禁煙への取り組みを開始した。

健康状況について満足と考えている者は 36.8%に対し、改善が必要と考えている者が 39.4%おり、健康向上に向けての支援が必要である。今後も飲酒や禁煙に向けた取り組みを行なう他、食事や睡眠に関する取り組みの強化が必要である。

【Q30】食事は、栄養バランスを考えて食べていますか〈SA〉　《不明：4件　を除く》
（N＝1284）



【Q32】「朝食を摂らない」と回答した方の理由は何ですか〈SA〉　《不明：711件　を除く》
（N＝577）

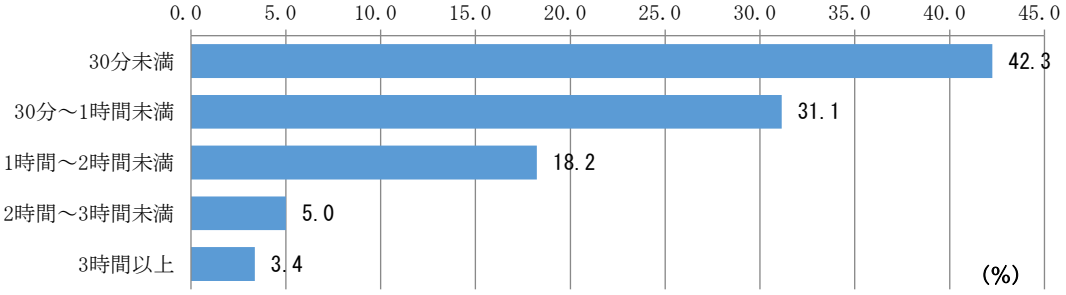


５．学習の状況について

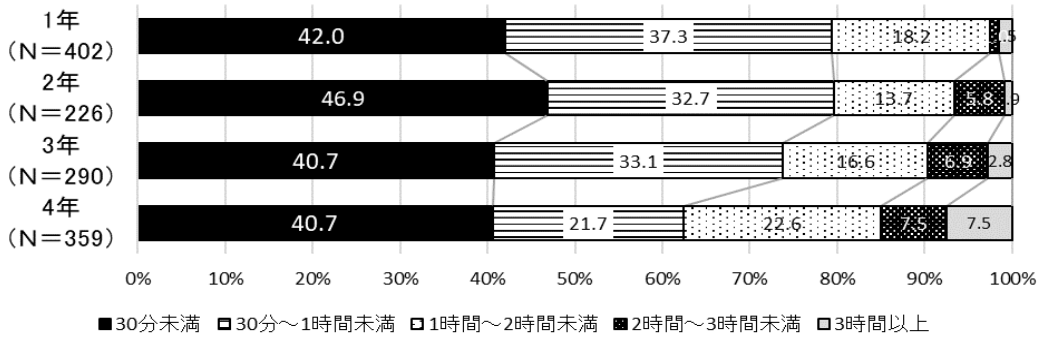
授業回数の 5 分の 4 以上出席している学生は 93.2%(2016 年度 94.0%)だが、授業以外の 1 日平均自己学習時間は 30 分未満 42.3%(2016 年度 43.9%) であった。学年別では、全ての学年で 30 分未満が 40%以上であり、1 時間以内は 1～3 年次で 70%以上を占めた。一方、試験期間中の 1 日平均の自己学習時間は 3 時間以上 31.9%(2016 年度 35.5%) であることから予習・復習の自己学習時間が不足し、試験前にその場しのぎの学習を行っている。学年別でも各学年ともに 2 時間以上が 50%以上を占め、特に 2 年次 3 年次は 60%以上が 2 時間以上自己学習をしていた。前回調査においても同様の課題が挙げられ、本学の未達成の課題である。

カリキュラムについては「不満はない」が 51.9%(2016 年度 46.1%) と増加したが、前回課題として挙げられた「時間割の重なりにより履修したい科目が登録できない」が 39.8%(2016 年度 41.2%) であったことは、教養科目の必修科目を午前に配置するなど対策を講じたものの 1.4%の減少に留まり、今後も時間割の編成の検討が必要である。

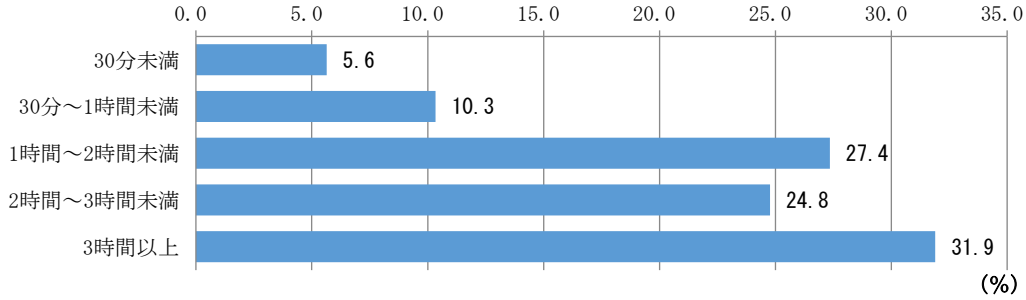
【Q44】授業時間以外の自己学習の時間は、1日平均どのくらいですか〈SA〉
《不明：10件　を除く》（N＝1278）



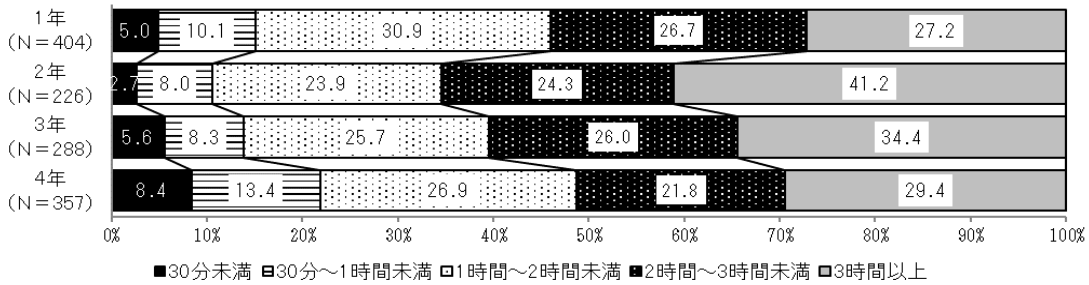
【Q44】授業時間以外の自己学習の時間は、1 日平均どのくらいですか（学年別）



【Q45】試験期間における自己学習の時間は、1日平均どのくらいですか〈SA〉
《不明：12件　を除く》（N＝1276）

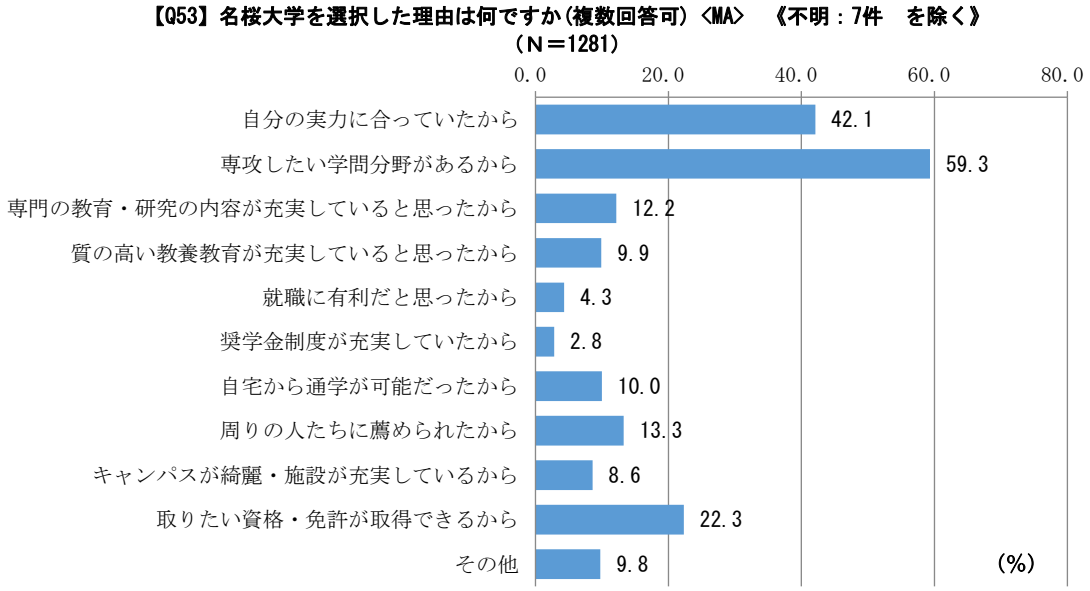


【Q45】試験期間における自己学習の時間は、1 日平均どのくらいですか（学年別）



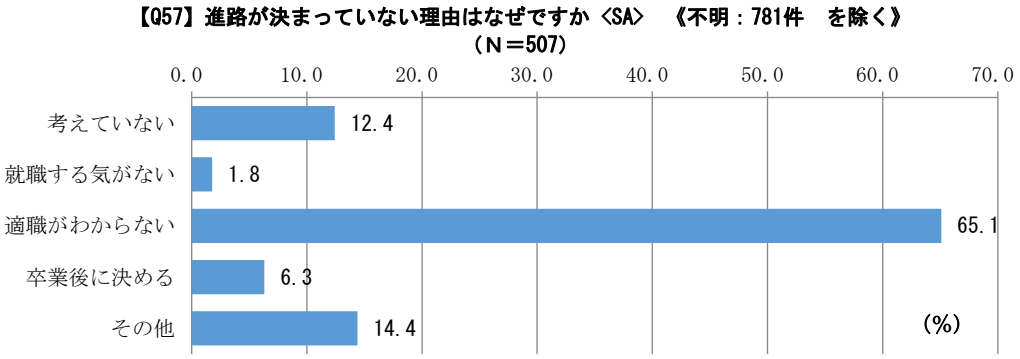
６．入学の状況について

本学に入学した理由として、「専攻したい学問分野がある」59.3％(2016 年度 56.6%)、「取りたい資格・免許が取得できる」22.3％(2016 年度 32.2%) であり、在学中に幅広い知識や教養を身につけ（今回 49.2％、2016 年度 52.7%)、専門分野を深く学び（今回 49.3％、2016 年度 50.3%)、同時に資格・免許を取得し（今回 45.0％、2016 年度 50.2%)、外国語の運用能力を身につける（今回 31.3％、2016 年度 30%) ことを目標にしていた。一方で、「自分の実力に合っていたから」42.1％(2016 年度 47.0%) という理由で入学した場合、将来のキャリアビジョンがもてず退学してしまう可能性が潜んでいる。従って、初年次教育の学習環境の充実が求められる。



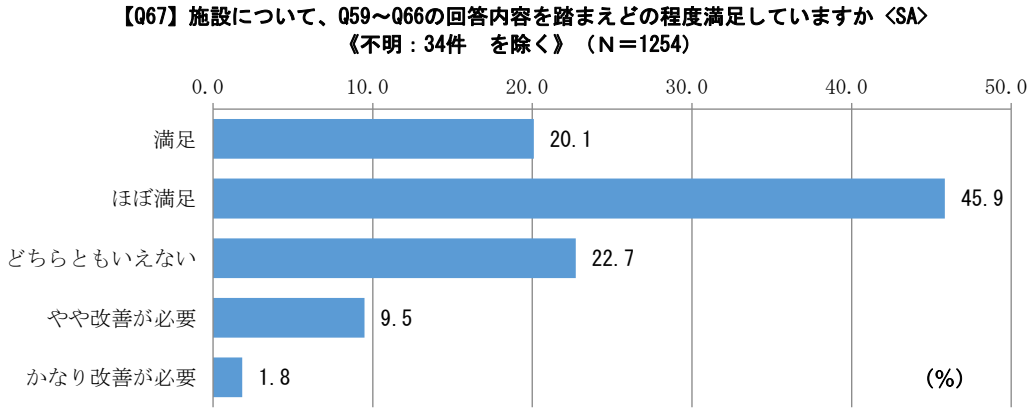
７．進路の状況について

学生生活の中での悩みごとで最も多い事項は「就職･進学等将来のこと」51.9％(2016 年度 50%) であり、全学年で進路未決定の割合が 38.6％(2016 年度 37.5%) であった。民間企業・団体の志望学生は 35.3％、専門職 32.0％、公務員 25.1％(2016 年度 27.7%) であり、教育･研究職 13.5％(2016 年度 14.9%) を上回っている。進路未決定の理由では、「適職がわからない」65.1％(2016 年度 68.1%)、「考えていない」12.4％(2016 年度 14.9%)、「卒業後に決める」6.3％(2016 年度 3.1%)、「就職する気がない」1.8％(2016 年度 1.8%) であった。さらに、「適職が分からない」の内訳として 1～3 年次で 70～76％、4 年次においても 25.6％であったことから早期のキャリアビジョンの確立できるような学習支援が課題である。



８．施設について

学食を利用している者は 48.1%(2016 年度 58.4%)であり、72.8%(2016 年度 69.6%)が満足していた。カフェについては、69.5%(2016 年度 77.1%)が利用し、87.7%(2016 年度 86.0%)が満足していた。図書館の利用状況は、56.0%(2016 年度 50.0%)の学生が週平均 1、2 回利用しているが、44.0%(2016 年度 30.7%)は利用していなかった。図書館への要望としては、蔵書を増やしてほしいや空調の温度設定、開館時間の延長などの意見が挙がった。次年度は図書館の増改築が終了するため学習環境の大幅な改善が期待される。また、人間健康学部実験・実習棟裏の駐車場については、2020 年度に整備計画が予定されていることから駐車場の環境が改善される。



前回調査と比べると、学生生活に満足している者が増加している一方で、経済状況の二極化の傾向がみられ、そのことが健康問題や学業不振、キャリアビジョンの未確立にもつながっていることが示唆された。

本調査では、学生の学習・生活面などの環境についての意見が明らかとなり、学生のより快適な学生生活環境の実現を目指すためには、今後の運営等への活用に繋げるアクションが重要である。教育部門にとどまらず事務部門も含め、各部署、各部門での本調査の活用を期待したい。

令和２年３月　名桜大学学生サポート委員会